

## 2016 ジャパンカップ オープンレース女子 レースレポート

パナソニックレディース 坂口聖香

平成 28 年 10 月 22 日(土)

宇都宮市森林公園周回コース

11:05～ 10.3km×3 周 30.9 km

結果 4 位

PHOTO:Hideaki Takagi



©Hideaki Takagi

今年のジャパンカップも昨年と同様で鶴カントリークラブの上りがないショートカットコースに。スタートしてしばらく標高 185m、1.5km ほどの古賀志林道のつづら折りの上り坂がコースのメインとなり上れる選手が優位となりますが、頂上を超えると上った分よりも長い下り坂があり、そこから次の周回に入るまではほぼ平坦なので、レース距離もとても短く、上りで抜け出しても後方の選手・集団に復帰され振り出しに戻る展開を警戒しました。

スタートしてすぐ、1 周目の古賀志林道の上りから牧瀬選手がアタックし、そのまま交代するように金子選手がリードしていき、この区間で私を含む 4 人の選手に絞られますが、下りから平坦区間に入るとやはり後方から選手が合流し 12 人ほどの集団に。2 周目も、同じような流れで金子選手が上りをリードしますが、なかなか少数の形では抜け出せず、同じく下りから平坦区間でまた少集団に形成されるという繰り返しでした。

最終周回、せっかく抜け出したものの集団は上手く機能せず、やはり後ろから復帰する選手が多い展開で、このままではただスプリントになってレースが終わってしまうと思ったので、最後の古

賀志林道の上りを自分で仕掛けようと決めました。上り口は福田選手と金子選手がリード。いいスピードで選手がバラけ始めたのでそこから KOM まで 500m のところから動いてみました。下りに入ってからさらにうまくバラけたのですが、やはりラスト周回、後ろから選手が復帰する形で再び振り出



©Hideaki Takagi

しに。

ゴールするまでに、合田選手、樫木選手、牧瀬選手により何回か集団を揺さぶるようなアタックがあったのですが、私は逃したらいけないの考え一辺倒で、最後に脚を消耗する考えにはならずレース展開を客観的に掴むことができないでスプリントする前に自分で厳しい展開に運んでしまいました。結局そのままゴールスプリントに突入し、かかりがいいわけもなく無惨に終わってしまいました。

自分でレースを展開できなかったのもそうですが、何よりも最後のゴールスプリントで勝てないと見切って自分からスプリントを放棄するような行動をとったのは今後自分が考えるべきことだなと感じました。レース後、ゴールラインを切る前に諦めてしまいペダルを踏む力を緩めてしまい最後に交わされ順位が落ちた自分を見た父に言われたのですが、「どんなレースだろうがたくさんの人にサポートして走らせてもらっているライダーが取るべき行動ではない。」「最後は自分の感情は二の次でゴールラインを切るまで責任持って乗ってるタイヤを運ぶべき。」

父に言われてから、レースが終わって冷静に考えても、自分がした行動は完全に甘えでした。

今回のレースは上りがあるということで少し他力本願になってしまい、距離は短くとも金子選手のように率先して上りでリードできるくらい上りをこなせるようにならないといけないと感じました。まだレースを客観視できない自分がいるのでレースで1つ1つ感じたことを見直そうと思います。勝負ど

ころでずる賢い？選手になるにはまだまだ時間はかかるかもしれませんが、レースの時もレースを終えても常に考えられるようにしたいです。

長かったロードシーズンは終えようと思いますが、早くも続いてシクロクロスシーズンに入ろうとしています。トレーニング・準備をしてしっかり走れるようにしたいと思います。



©Hideaki Takagi